

山行名	湯西川温泉かまくら雪まつり (栃木県日光市)		
実施日	令和7年2月07日(金)~08(土) 1泊2日 公共交通利用		
天候/参加人員	天候:曇り/晴、レベル:★ 参加者:申込9名/実施9名(男性2名/女性7名)		
パーティスタッフ	省略		
参加メンバ	省略		
一人当たり費用 28,028円 (本厚木駅起点)  カンパ金 460円	28,028円(PASMO 払交通費¥1634+現金払交通費¥11,850+宿泊費¥13,761+平家の里入場料・その他¥783+カンパ金¥51) 費用内訳:交通費①本厚木→代々木上原→北千住¥765+浅草→神田→本厚木¥869⇒①¥1634(PASMO 払)、②往路:北千住→湯西川温泉駅(乗¥1920+特¥2030)・帰路:湯西川温泉駅→浅草(乗¥2110+特¥2030)+追加特急料金(下今市→浅草¥1650)、日光交通バス(湯西川温泉駅⇄湯西川温泉伴久前¥1050x2)¥2100⇒②現金払い交通費¥11,850、③平家の里入場料¥510、④宿泊費(3室/9人・夕朝食付)¥123,850/9⇒¥13,761、⑤その他:通信費¥2000/9⇒¥222、カンパ金¥460/9⇒¥51⇒⑤その他計¥273 /、一人当たり総費用(①+②+③+④+⑤):¥28,028		
歩行数/行動時間	歩行数	雪上行動時間	2/08:歩行数:~5700歩
2/07	ガイトブック	—	—
	計画	—	昼間3:00+夜間1:45/計4:45
	実行	~12,000	昼間1:55+夜間1:25/計3:20
実行コースタイム記録			
◆2/07(金) 天候:曇り/晴れ/気温:日中-0.2℃/夜間-5℃ 日光交通バス 0:10 0:15			
本厚木駅改札口==代々木上原==北千住==湯西川温泉駅・道の駅湯西川==湯西川温泉伴久前...おやど湯の季...			
集合 7:20/7:38	8:43/8:45	8:35/8:43	12:00 12:30 12:55 13:05-14:05
0:09	0:22	夕食17:55-18:55 送迎車	0:10 0:10
平家の里...沢口橋...湯の季(休憩・夕食)==沢口河川敷...平家の里...おやど湯の季(泊)			
14:20/15:26	15:35/15:48	16:00-19:05	19:10/19:30 19:40/20:25 20:35
◆2/08(土) 天候:雪/曇り/雪 気温-4℃~ 特急けごん38号 丸の内線 中央線 小田急線			
湯の季...伴久前バス停==道の駅・湯西川温泉駅==新藤原==下今泉==北千住==浅草==神田==新宿==本厚木			
9:45	9:55/10:06	10:35 13:44	13:53/14:03 14:35/15:05 16:45 17:07/17:15 17:35/17:41 18:31
コースの概要、特記事項、反省事項等			
<p>平家落人が発見・住み着いた山奥の温泉として知られる福島県境の日光市湯西川温泉に1泊し、毎年1月/末~3/初旬の週末に開催される「湯西川温泉かまくら祭り」(今年で開催32回目、日本夜景遺産・関東三大夜灯指定)をゆった〜り山行として実施すべく、10数軒ある旅館のうち、口コミ評価の高い客室16室の小規模旅館「おやど湯の季(ゆのととき)」に狙いを定め、昨年7月に宿泊して実地確認をした。実施日は、例年積雪が最も多い2/7(金)~8(土)と定め、9月には上記旅館の予約を済ませ、東武鉄道リバティ会津号指定席の予約購入等、万全の準備を済ませて、実施日を待った。実施数日前に今冬最大の寒波襲来による大雪で、現地までの列車・路線バスの運休等について心配になり、現地に何度も電話して状況を確認するなど、はらはらしながら当日を迎えたが、9名の参加メンバ全員大感激の素晴らしい、たっぷりの雪に恵まれた「かまくら雪祭り」の旅を体験することができた。</p> <p>2/7朝、東武北千住駅から、東武鉄道特急「リバティ会津」に乗車し、野岩鉄道「湯西川温泉駅」、さらに路線バスに乗り継いで、1:00pm前に今夜の宿「湯の季」にチェックインした。一休みしてから、今夜の2カ所の会場の下見を兼ねて、平家の里と沢口河川敷まで、スノー・ウォーキングを楽しんだ。主に圧雪の緩い坂道歩きだが、標高750mの湯西川温泉の気温は-0.2℃で、路面は凍結していなかったため、トレッキングシューズを履き、ダブルストックで、スリップしないように注意深く歩いた。昨日、約40cmの降雪があったそうで、一面新雪に覆われ、積雪深は北向きの屋根上や日陰で約1m、日当たりの良い場所で20~30cmであった。かつての平家集落を再現したとされる「平家の里」庭内に立つ10棟ほどの茅葺屋根古民家内の展示物を見学し、庭に立ち並ぶ大型のかまくら3基、ミニかまくら約250基、竹筒に繊細な彫刻を施した「平家あかり」の照明器、壇ノ浦で命を落とした安徳天皇を祀る赤間神社等を見学し、その後、第2会場の沢口橋まで雪景色を楽しみながら辿って、河川敷に並ぶ、まだロウソクの灯りが灯る前の約400基のミニかまくら群を眺めてから、往路を湯の季まで戻る約3時間のスノー・ウォーキングを楽しんだ。</p> <p>6:00pmからの夕食までの2時間、広いラウンジで、コーヒーを飲みながら、全員でおしゃべりしたり、部屋に戻って、窓の外に広がる雪景色を眺めたりと、めいめい時間を過ごした。アマダクジで決めた部屋割りは、15畳和室に2組の夫婦メンバが、もう一つの15畳和室に女性2名、10畳+4.5畳の和室に女性3名となった。暖房が利いた広々とした部屋で、一晩ぐっすり快眠できたようだ。湯西川温泉の自慢の源泉かけ流しの弱アルカリ性炭酸水素ナトリウム温泉は、内風呂、露天風呂、利用自由の (2/2)</p>			

貸切露天風呂と男女合わせて5か所の浴槽があるが、雪見の露天風呂はあまりに寒く、入浴したのは4名のみで、大半のメンバは、かまくら祭りから帰ってきた9:00pm以降と朝食前に内風呂に入ったようだ。

我々9名の夕/朝の食事処として、お願いしていなかったが、特別に個室を用意していただいた。6:00PMからの夕食は、湯西川名物の湯葉料理の数々、アユの塩焼き、ヤシオマスのお造り、那須三元豚のしゃぶしゃぶ等、地元の食材をふんだんに使用した会席料理が、タイミングよく次々に運ばれてきて、満腹満足と言いながら、全員完食したようだ。食後に夜のかまくら祭り会場巡りがあることから、夕食時のアルコール飲料は我慢していただいた。

朝食を含めた食事の味、量、見栄え、内容、提供のタイミングやサービスともほぼ満点との高評価をいただいた。また、広くて清掃が行き届いた和室、真新しい寝具、従業員全員の笑顔の対応等々、メンバ全員から、いい旅館に泊まったと、感謝の言葉をいただいた。実は、CLが現地調査をした直後の昨年8月に、湯の季の後継者不在で、新しい経営者に代わったそうだが、板前や仲居さん等の従業員はそのまま継承できたので、従前の宿泊料金のままで、クオリティの高いサービスを提供できており、宿泊客からのクチコミ評価でも湯西川温泉旅館の中でトップを争うなど、従来以上の高評価を受けているようだ。

夕食後、かまくら祭り第2会場の沢口河川敷まで、旅館のワゴン車で送迎してもらった。湯西川の河川敷や中洲に造られた約400個のミニかまくらに一斉にろうそくが灯され、暗闇の河原に整然と並ぶオレンジ色の灯りが輝く幻想的な景観に直面し、一斉に感激の歓声が上がった。この河川敷に設置されている約400基と平家の里会場の約250基のミニかまくらの維持管理に当たる地元の方の話によると、1/30~3/2の金・土・日の3日間（平家の里のミニかまくらは、祭り期間中毎日ろうそく点灯）、ろうそくに火を燈す5:00~9:00pmまでの4時間の間、ろうそくが解けて、火が消えたり、風で火が消えてしまった場合には、すぐに新しいろうそくに取り換え、また、降雪や日中の気温上昇で、ミニかまくらが変形するだけではなく、一日4時間点灯を3日間続けると、ろうそくの熱で、かまくら内部の空洞が大きくなって、かまくらが変形・破損されてしまうため、その都度、ミニかまくらを作り直すという。この大変な維持管理の仕事を、地元旅館のメンバを中心に実施しているという苦労話を聞かされた。38年間続く湯西川温泉かまくら祭りを滞りなく開催できる陰には、地元関係者の大変な努力と負担のたまものであることを理解することができた。

沢口河川敷会場から第2会場の平家の里までは約10分の緩い上り坂。この間、LED照明のぼんぼりの街灯が約50m間隔で設置されており、持参したヘッドランプを点灯しなくて済んだ。また、夜間になって気温が-4℃~に下がり、路面の圧雪が凍結し始めていたが、念のため持参した軽アイゼンやスパッツの世話にならず、ダブルストックのゆった〜り歩行で、スリッパせずに安全に行動することができた。

昼間に引き続き、入場した平家の里は、約250基のミニかまくらと大型のかまくら3基にオレンジ色の明かりが灯り、茅葺屋根の建物の内部も明るい照明に照らし出されていた。特に目を引いたのは、新たに加わった、彫刻を施した竹筒の中にLED照明を入れて、幻想的で、多彩なイルミネーションの光の芸術「平家あかり」のイベントだ。なお一層幻想的で幽玄の雪景色を見事に演出している景観に見とれ、異次元の体験に興奮しながら、園内をゆっくり一周して見て回った。約1時間半にわたる夜のかまくら祭り会場巡りを存分に堪能してから、宿に戻った。冷えた身体を源泉かけ流しの温泉で十分温め、ラウンジで持参のプレミアム焼酎のお湯割りを数名のメンバで嗜んでから眠りについた。

2/7午後2:00pmから夜9:00pmの屋外での行動時間中、時折日も差す曇天で、この間、雪がちらつくこともなく、快適にスノー・ウォーキングを楽しむことができた。しかし、夜半から2/8日中に、再び本格的な降雪があり、20cmほどの新雪が積もったようだ。時折小降りになる時間帯もあったが、昨日は全く雪が見当たらなかった鬼怒川温泉南約10kmの下今市駅に移動した3:00pmごろまで、本降りの雪が降っていた。我々が湯西川温泉で行動中の2/7午後から夜にかけて第一波の寒波が中休みし、天候が一旦回復して、青空がのぞき、陽が射す時間帯があったが、その後すぐに寒波の第2波が、栃木県北部まで南下して雪を降らせていたようだ。実施日が前後に一日ずれていたら、眺望の乏しい降雪の中、寒さに耐えながらの行動になっていた。偶然とはいえ、ラッキーだった。

帰路、予約してあった西川温泉駅発11:29発/浅草14:15着のリバティ会津号に乗車する予定であり、事前に特急座席指定券の購入も済んでいた。発車時刻の約1時間前に「湯西川温泉駅兼「道の駅湯西川」」に到着して、列車発車時刻までの約1時間を自由時間とした。かまくら祭り期間中、路線バスのダイヤがかなり変更になっていたこともあり、念のためと湯西川温泉駅の列車発着時刻表を確認しに行き、下り列車の11:59と誤認してしまい、間違いに気が付いた時には、乗車予定の上り特急列車は湯西川温泉駅をすでに出発してしまった後の祭りだった。やむなく、2時間後の次の列車に乗り、新藤原駅で各駅停車に乗り継ぎ、上今市駅から特急に乗り継いで浅草に到着したのが2.5時間遅れの4:45pmとなったうえ、1650円の余分な出費をお願いする失態を起こしてしまい、折角の素晴らしい雪の旅に汚点を残してしまった。ご迷惑・ご心配をおかけした同行メンバに心からお詫び申し上げます。